

河合監督の「日本と再生」上映

エネルギーの転換考える

河合弘之監督の最新作「日本と再生」

光と風のギガワット作戦」の上映会がこのほど、くにびきメッセ（松江市学園南）で行われ、県内外から約240人が参加。満員の会場では、メモを取り

ながら鑑賞する人の姿もあった。

同上映会は、一般財団法人「人間自然科学研究所」（同市乃木福富町）が主催。原発問題や自然エネルギーへの転換について学び、「共生の文化」の創造など

を考える講演の一環として行われた。

河合監督は、浜岡原発（静岡県）や伊方原発（愛媛県）の運転差

止訴訟などで弁護団長や住民側代理人を務めた弁護士。原発問題に関する映画制作を続けている。

3作目となる同作品は、監督自らの取材に基づいた「原発をなくした後、自然エネルギーで十分にやっていたことが分かる」（同

監督）ドキュメンタリーだ。ドイツや中国などのエネルギー産業では、すでに風力や太陽光発電などの自然エネルギーが主力であることを紹介。画面を通し、「世界とともに歩くか、それとも取り残されるか？ 私たちが進む道を考えてください」と訴えている。

上映後には、株式会社エナテックスの磯江公博さんが「自然エネルギーの現状と展望」と題し、太陽光発電事業などについて講演。続いて、同研究所の理事長で、小松電機産業株式会社の小松昭夫代表取締役が「八雲立つ日本・出雲から未来を拓く（ひら）く」と題して講演した。

倉吉市から参加したという男性（39）は、「自然エネルギーは、ビジネスとしてもチャンスがあると分かった」と感想。出雲市の女性（50）は、大勢の出席者を見ながら、「関心の高さに驚いた。（上映会は）将来に向けた最初の一步になると思いますが」と話していた。



満員となった上映会場＝松江市学園南のくにびきメッセ